

子ども家庭庁は、これまでの延長線上ではなく、  
既存の仕組みやデザインを「こどもまんなか」理念で作り変える決意と覚悟が必要

### ◇教育制度について

(1) 日本の教育制度は、40人学級から35人学級に移行中だが、「こどもまんなか」なら、**クラス編成は、生徒や教職員の数字合わせや全国一律のような大人の事情ではなく、子どもを一番に考え、校長先生の判断で行えるようにすべきでは？**

(2) 同じ年齢の子どもたちを同じ学年にする運営が強固に維持されているが、「こどもまんなか」なら、**少人数制に加えて、子どもの個性に合わせたランク別授業運営や、飛び級制度も取り入れるべきでは？**

### ◇「子どもの声を聴く」について

(1) **親の経済状況には左右されず、子どものSOSを直接察知できる、子ども家庭庁と一人一人の子どもが直接つながれる方法を実現すべき**（例：一人一台のIT端末をこどもの命綱の1つとして活用）

(2) 「**子どもの声を国の政策に反映していく**」のであれば、中央官庁同士の連携（例：財務省が各学校で主催の財政教室など＜事例資料あり＞）で波及効果と費用対効果をあげていくべき

### ◇大人たちのアップデート

**こどもまんなか理念で、大人たちをアップデートしていかなければならない**

職場：企業の事情より、男女ともに仕事と子育てが両立でき、こどもまんなか理念が優先される仕組み

保護者：子どもが生まれる前の両親学級から徹底していく仕組み

地域住民：自治体や自治会などと連携して理解を促進する仕組み など

# 財政教育プログラムってなに？

## 対象に応じたグループワーク

**小学生向け**  
**日本村の  
 予算をつくろう！**

もし、日本が100人の村で予算が100万円だったとしたら…

日本村の役員になって、「みんなからどのようにお金を集めて、どのように使えば、村の未来を良くできるのか」を考えてもらうタブレット端末を使った予算編成シミュレーション

**中学生向け**  
**財務大臣になって  
 予算を作ろう！**

日本の財政の現状と課題を学習

社会保障や教育、科学技術振興など、日本の未来をより良くするためにはどうすべきか。歳出・歳入について実際の国の予算をベースに議論し、主権者としての意識を醸成するタブレット端末を使った予算編成シミュレーション

**高校生向け**  
**社会保障改革  
 プランに挑戦**

受益と負担のバランスを考えながら社会保障と税制を考える

受益と負担がアンバランスな状態となっている日本の社会保障制度を持続可能で安心な制度にするための改革プランと税制改正を立案する

※予算編成シミュレーションは学校の設備環境や要望に応じ、タブレットではなく『予算ボード』を使用することがあります。  
 ※実施対象はあくまで目安です。どのグループワークを実施するかは、学校と協議のうえ決定願います。

# 財政教育プログラムってなに？（北海道の事例）

北海道財務局の 取組	2022年3月	2016年度開始から、実施校の累計100校
		受講生徒数の累計約5,000人

## 2022年の事例

### 【高等学校】

北海道池田高等学校 2年生 38名  
令和4年6月21日（火）

ほか



### 【中学校】

鶴居村立鶴居中学校 3年生 20名  
令和4年3月10日（木）

ほか



### 【小学校】

北海道教育大学附属旭川小学校 6年生 68名  
令和4年7月19日（火）・20日（水）

ほか

